

—食事内容のよい勤労者世帯、悪い専業農家世帯、日雇労働者世帯—

食事内容の状態を簡単にみる方法として、穀類カロリー比、動物性蛋白質比を使って、各種業態の世帯を比較すると、常用勤労者世帯は、それぞれの目標値である60%以下、40%以上に達しているが、専業農家世帯は著しく悪く、続いて兼業農家世帯も悪い。日雇労働者世帯は動物性蛋白質比はかなり目標値に近づいているが、穀類カロリー比は農家世帯なみに悪い。

しかし、微量栄養素の中で重要であるカルシウム、ビタミンA、B₁、B₂、C、または脂肪については日雇労働者世帯が悪い状態にある。

—地域にかたよった栄養摂取状態—

食糧の生産・流通条件あるいは所得水準は地域によって差があるので食生活もその影響をうけることになる。全国を12ブロックに分けて集計した成績に基づいて、穀類カロリー比、動物性蛋白質比を地域ブロック別に比較すると東京、横浜を含む関東Ⅰ地域、大阪、神戸、京都を含む近畿Ⅰ地域が、それぞれの目標値にはほぼ達しているが、南九州、北陸、東北地域は悪い。また、東海、近畿Ⅱ、関東Ⅱ地域も問題がある。また、ビタミン類の摂取量は、北海道、南九州地域、つづいて北九州地域において少ないのが目立っている。

—大都市より悪い、小都市、町村の栄養状態—

穀類カロリー比、動物性蛋白質比は、人口5万以上の市から7大都市までが目標値に達しているが、人口5万以下の市、町村は悪い状態にある。

これを、熱量の食品群別摂取構成で比較してみると、大都市ほど米が少なく動物性食品が多く、町村、人口5万以下の市はこの逆の形であることが目立っている。とくに町村では、脂肪、ビタミン類の摂取量が著しく少ない。

食糧消費の状況

次に昭和41年度の国民1人1日当り食品群別摂取量についてみると次のとおりである。

—伸びる畜産食品、油脂類—

全国平均1人1日当り食品群別摂取量は、昭和39年度に比較して畜産食品、油脂類、小麦類、緑黄色野菜以外の野菜が増加を示し、特に畜産食品と油脂類は順調な増加を示した。

一方、米、いも類、果実類、緑黄色野菜は若干減少している。

—畜産食品に目立つ農家世帯、非農家世帯の差—

農家世帯、非農家世帯の別に食品摂取状況を比較すると肉類、卵類、乳類は、非農家世帯の人達は農家世帯の2倍前後を摂取している。また、油脂類もかなりの差がみられる。

業態を細分してみた場合には、常用勤労者世帯の食糧消費水準が最も高く、これに比べて専業農家世帯と日雇労働者世帯はかなり下回った消費水準にあり、特に畜産食品、油脂類、果実類の差が著しい。

Ⅱ 各 説

A 食 品 摂 取 量

1. 全国平均1人1日当り食品摂取量

昭和41年度の国民1人1日当り食品群別摂取量は表一5のとおりである。

(32)

昭和39年度に比較して、穀類については、米と大麦が減少し、小麦類が約10%程増加を示した。いも類、果実類、緑黄色野菜、菓子類は若干減少し、砂糖類、豆類、魚介類は横ばいであるが、油脂類は37%、肉と卵は約13%、乳・乳製品18%とかなりの増加を示している。

表一五 全国平均1人1日当り食品群別摂取量表(各11月) 単位=g

	31 年	33 年	35 年	37 年	39 年	41 年
米	365.3	354.6	360.5	353.7	354.3	334.7
小麦	62.7	66.9	61.0	68.2	62.9	69.4
その他穀類	44.1	41.2	29.1	14.9	8.0	7.8
いも類	72.4	107.1	86.8	72.8	74.0	69.1
砂糖類	15.0	10.8	11.3	12.4	14.8	14.9
油脂類	4.7	5.3	5.5	7.3	7.9	10.8
豆類	74.8	73.0	72.3	71.7	74.4	75.6
緑黄色野菜	52.0	42.9	41.8	40.7	50.7	45.7
その他の野菜	182.9	171.9	177.5	170.3	176.7	191.4
果実類	60.3	73.5	78.4	85.0	127.7	120.2
魚介類	81.8	88.2	85.2	83.0	83.6	84.4
獣鳥鯨肉類	15.9	18.0	18.0	27.4	30.6	34.7
卵類	10.7	12.7	17.7	26.2	30.2	34.0
乳類	18.1	21.5	28.8	36.5	46.2	54.4

(注) 昭和41年度調査は生活総合調査の関係で11月に実施したため年次別成績の検討は、同じく11月に実施した39年度調査成績との比較を行ない、年次推移についても昭和31年以降について各年次とも11月成績について比較検討を行なった。

(1) 穀類

米

米類の1人1日当り摂取量は334.7gであり、昭和39年度の摂取量に比べて約5%の減少となっている。年次別の摂取推移をみると昭和31年以降ほとんど横ばいの状態にある。

小麦類

小麦類の摂取量は69.4gであり、昭和39年に比べて10%の増加を示したが、この10年間の推移をみた場合、実数としては特に目立った増減はみられない。

表一六 穀類の消費推移(1人1日当り) 単位=g

	31 年	33 年	35 年	37 年	39 年	41 年
総量	472.1	462.7	450.6	436.8	425.2	411.9
米	365.3	354.6	360.5	353.7	354.3	334.7
小麦	62.7	66.9	61.0	68.2	62.9	69.4
大麦	40.5	40.3	28.3	14.4	8.0	7.0
雑穀	3.6	0.9	0.8	0.5		0.8

その他の穀類

大麦を主とするその他の穀類の摂取量は7.8gであり、39年に比べて若干減少しているが年次推移をみると年々減少は著しく10年間に約1/6と激減している。

(2) いも類

いも類の摂取量は69.1gであり、昭和39年に比べて約7%減少している。
年次推移をみた場合特に大きな変化はみられない。

表-7 いも類の消費推移(1人1日当り) 単位=g

	31 年	33 年	35 年	37 年	39 年	41 年
総 量	96.9	94.6	72.7	60.5	74.0	69.1
甘 藷	52.6	50.4	33.3	23.9	-	13.6
馬 鈴 薯	19.8	19.4	20.3	17.8	-	23.3
そ の 他	24.5	24.8	19.1	18.8	-	32.2

(3) 砂糖類

砂糖類の摂取量は14.9gで、昭和39年とほとんど変わらないが年次推移をみるときわめて僅かながら増加傾向を示している。

表-8 砂糖・菓子類の消費推移(1人1日当り) 単位=g

	31 年	33 年	35 年	37 年	39 年	41 年
砂 糖	15.0	10.8	11.8	12.4	14.8	14.9
菓 子	-	-	20.1	23.4	30.6	24.0

(4) 油脂類

油脂類の摂取量は10.8gであり、39年に比べて37%と大幅に増加している。年次推移をみると順調な増加傾向を示している。

表-9 油脂類の消費推移(1人1日当り) 単位=g

	31 年	33 年	35 年	37 年	39 年	41 年
総 量	4.7	5.3	5.5	7.3	7.9	10.8

(5) 豆類

豆類の摂取量は75.6gであり、39年に比べて若干増加している。この内訳をみると、とうふおよびその加工品が38.7gで最も多く、次いでみそ27.1g、大豆およびその他製品5.0gになっている。また、その他の豆類は4.8gである。年次推移をみると特に目立つほどの増減はなく横ばいの傾向にある。

表-10 豆類の消費推移(1人1日当り) 単位=g

	31 年	33 年	35 年	37 年	39 年	41 年
総 量	74.8	73.0	72.3	71.7		75.6
大 豆	1.8	1.6	1.3	1.1	} 68.7	} 70.8
味 噌	29.9	30.4	27.4	26.4		
大 豆 製 品	35.2	34.6	37.0	38.5		
そ の 他 豆 類	7.8	6.4	6.6	5.7	5.7	4.8

(34)

(6) 緑黄色野菜

緑黄色野菜の摂取量は45.7gであり、39年に比べて10%減少している。年次推移をみるとこの10年間ほとんど横ばいの傾向にある。

表-11 野菜、果実類の消費推移(1人1日当たり) 単位=g

	31年	33年	35年	37年	39年	41年
緑黄色野菜	52.0	42.9	41.8	40.7	50.7	45.7
その他の野菜	182.9	171.9	177.5	170.3	176.7	191.4
果実類	60.3	73.5	78.4	85.0	127.7	120.2

(7) その他の野菜類

その他の野菜類の摂取量は191.4gであり、39年に比べて約10%増えている。年次推移をみてもこの10年間特に大きな増減はみられない。

(8) 果実類

果実類の摂取量は120.2gであり、39年に比べて、6%ほど減少している。年次推移をみるとこの10年間に約2倍に増加している。

(9) 動物性食品

魚介類

魚介類の摂取量は84.4gであり、39年の摂取量とほとんど変わらず、年次推移をみてもこの10年間横ばいの状態にある。

獣鳥鯨肉類

獣鳥鯨肉類の摂取量は34.7gであり、39年の摂取量に比べて約13%増加している。年次推移をみると順調な増加傾向を示している。

表-12 動物性食品の消費推移(1人1日当たり) 単位=g

	31年	33年	35年	37年	39年	41年
総量	126.5	140.4	149.7	173.1	190.6	207.5
魚介類	81.8	88.2	85.2	83.0	83.6	84.4
獣鳥鯨肉類	15.9	18.0	18.0	27.4	30.6	34.7
卵類	10.7	12.7	17.7	26.2	30.2	34.0
乳類	18.1	21.5	28.8	36.5	46.2	54.4

卵類

卵類の摂取量は34.0gであり、39年の摂取量に比べ約12%増加している。年次推移をみると獣鳥鯨肉類と全く同じような増加傾向がみられる。

乳類

乳類の摂取量は54.4gであり、39年に比べて約18%の増加となっている。年次推移をみると、この10年間に畜産食品の中で最も増加率の大きい食品である。

2. 世帯業態別食品摂取状況

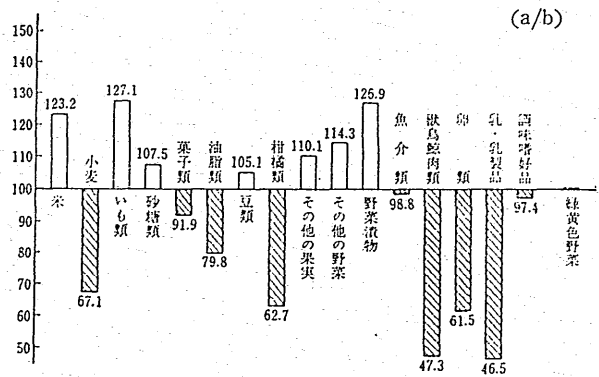
食品の摂取状況を農家、非農家別に比較してみると、この数年農家世帯の食生活は目立って改善されてはきているが、非農家世帯に比較した場合依然として下回った水準にある。

図一1は、非農家世帯の食品摂取量を100とした場合の農家世帯の比率を示したものである。

また、農家および非農家世帯の別に、この

10年間における食品群別摂取量の推移についてみると表一13、14のとおりである。

図一1 農家世帯(a)と非農家世帯(b)の食品群別摂取の比較



表一13 農家世帯の食品群別摂取量の推移 (1人1日当り) 単位=g

	31年	33年	35年	37年	39年	41年
米	385.2	394.7	387.4	392.0	407.4	388.1
小麦類	47.2	44.4	45.5	52.5	43.9	51.1
その他の穀類	53.6	55.3	46.0	24.7	14.2	12.7
いも類	119.9	144.0	115.2	90.4	90.6	81.7
砂糖類	13.5	10.9	12.5	13.5	15.5	15.8
油脂類	4.0	4.1	5.0	6.2	6.8	9.1
豆類	73.4	72.5	68.6	68.8	73.8	78.4
緑黄色野菜	54.8	46.0	47.6	45.4	50.2	45.7
その他の野菜	201.2	192.3	204.6	184.5	190.6	214.8
果実類	47.6	68.1	62.4	69.2	111.3	112.2
魚介類	77.7	82.0	78.2	80.3	79.6	83.8
獣鳥鯨肉類	9.3	9.5	8.6	14.9	16.1	19.2
卵類	7.0	8.3	11.8	18.6	19.3	23.3
乳類	12.5	15.5	21.3	19.2	27.7	29.6

表一14 消費者世帯の食品群別摂取量の推移 (1人1日当り) 単位=g

	31年	33年	35年	37年	39年	41年
米	345.7	328.8	347.3	333.4	328.7	314.9
小麦類	78.0	82.9	71.1	77.5	72.1	76.2
その他の穀類	34.9	29.9	17.6	8.5	5.0	6.0
いも類	84.1	78.8	68.0	62.7	65.9	64.3
砂糖類	16.5	10.7	10.6	11.9	14.4	14.7
油脂類	5.4	6.1	5.8	8.0	8.4	11.4
豆類	76.2	73.2	74.4	73.4	74.8	74.6
緑黄色野菜	49.2	40.8	38.5	38.3	51.0	45.7
その他の野菜	165.0	158.8	160.8	163.5	169.9	182.7
果実類	72.8	77.4	89.1	94.1	135.7	123.1
魚介類	85.9	92.1	88.8	84.5	85.5	84.8
獣鳥鯨肉類	22.4	24.2	24.1	34.3	37.6	40.6
卵類	14.5	15.8	21.7	30.4	35.4	37.9
乳類	23.5	25.9	34.2	46.1	55.1	63.6

世帯業態細分別

農家、非農家を最多収入者の職業によってさらに細分して、食品の摂取状況を比較してみると図-2、3によって明らかとなり、各業態間にかなりの格差がみとめられる。

図-2 専業農家世帯(a)と常用勤労者のいる兼業農家世帯(b)の食品群別摂取量の比較

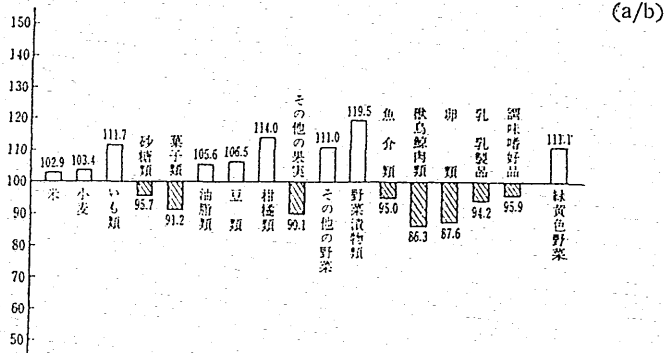
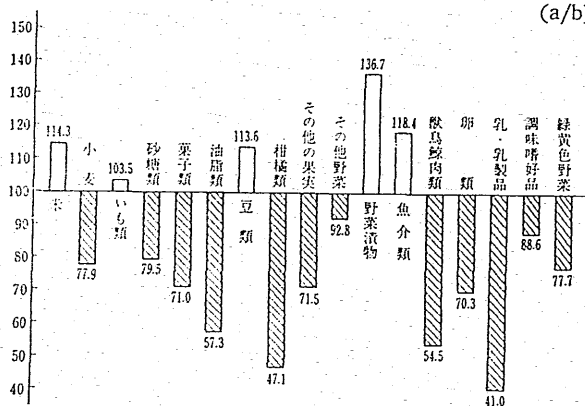


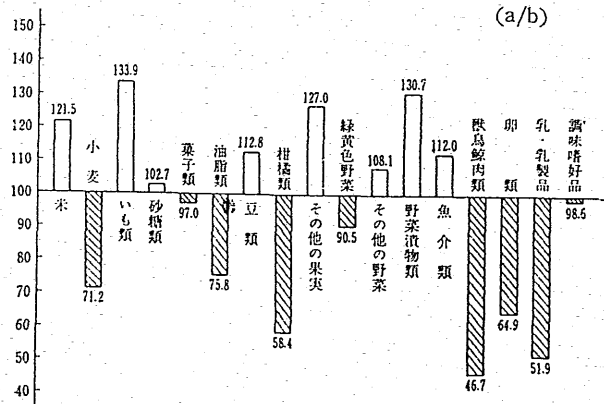
図-3 日雇労働者世帯(a)と常用勤労者世帯(b)の食品群別摂取量の比較



3. 市郡別食品摂取状況

人口規模の大小によって市群別に食品摂取状況を比較してみるとかなりの差があり、大都市ほど食糧消費水準は高いことが明らかである。図-4は、7大都市と町村の比較をしたものであるが、小麦、油脂、畜産食品に著しい差がみとめられる。

図-4 町村(a)と7大都市(b)の食品群別摂取量の比較



4. 地域ブロック別食品摂取状況

地域ブロック別に食品摂取状況を集計した結果についてみると表-15のとおりで、

油脂類、肉類、卵類、乳類などの食品についてはかなり地域差がみとめられる。

東京、横浜を含む関東I地域と大阪、神戸、京都を含む近畿I地域の食糧消費水準は上位にあり、南九州、北陸は低い水準にある。

表一15

1人1日当り食品群別摂取量表 (地域ブロック別)

単位=g

	全国平均	北海道	東北	関東I	関東II	北陸	東海	近畿I	近畿II	中国	四国	北九州	南九州
米 類	334.7	333.8	※ 374.3	289.3	347.8	※ 384.3	337.7	324.0	※ 405.0	336.3	326.8	327.5	346.2
油 脂 類	10.8	9.1	※ 11.0	14.4	12.6	8.8	8.5	10.7	6.8	10.9	9.2	9.2	8.9
豆 類	75.6	78.5	※ 98.4	72.4	72.3	78.3	66.7	67.8	67.7	70.3	76.9	81.0	※ 90.1
果 実 類	120.1	115.2	※ 134.9	115.7	113.9	120.5	117.1	117.0	122.7	129.3	※ 155.9	119.2	91.4
緑 黄 色 野 菜	45.7	41.1	43.1	49.4	49.1	37.2	44.4	49.0	57.7	48.0	40.7	39.4	47.6
その他の野菜及び茸類	193.1	202.3	254	193.6	231.1	238.7	170.9	172.6	166.4	164.1	159.4	165.9	170.4
魚 介 類	84.5	※ 109.4	※ 97.9	77.6	82.9	88.1	76.8	76.5	83.9	88.6	80.2	89.4	85.2
獣 鳥 鯨 肉 類	34.7	25.2	22.7	※ 47.0	26.6	22.1	33.6	※ 51.2	※ 41.0	※ 30.9	28.3	33.2	24.2
卵 類	33.9	28.6	25.2	※ 39.2	28.2	26.3	33.5	※ 42.6	35.3	38.8	35.3	33.6	28.4
乳 及 び 乳 製 品	54.4	51.7	40.9	※ 69.6	43.2	44.7	58.2	※ 71.8	64.3	52.6	50.1	43.2	28.4

(注) ※は、全国平均より1割以上多い数字
 —は、全国平均より1割以上少ない数字

B 栄養摂取量

1. 全国平均1人1日当り栄養摂取量

昭和41年度の全国平均国民1人1日当り栄養摂取量は、昭和39年度と比較して、熱量、蛋白質、ビタミンB₁は横ばい状態にあるが、その他の重要栄養素は順調な増加を示している。特に脂肪の増加が目立っており、次いでビタミンB₂、Aが増えている。

この栄養摂取量を昭和38年に厚生省栄養審議会が答申した昭和45年を目標とした日本人の望ましい栄養摂取量と比較すると図一5のとおりで、熱量、蛋白質、脂肪は目標値にはほぼ達しているが、カルシウム、ビタミン等の微量栄養素はまだかなり下回っている。

(1) 熱 量

熱量の摂取量は、2,193カロリーであり、昭和39年に比べてほとんど変わらず、年次推移をみてもこの10年間横ばいの状態にある。

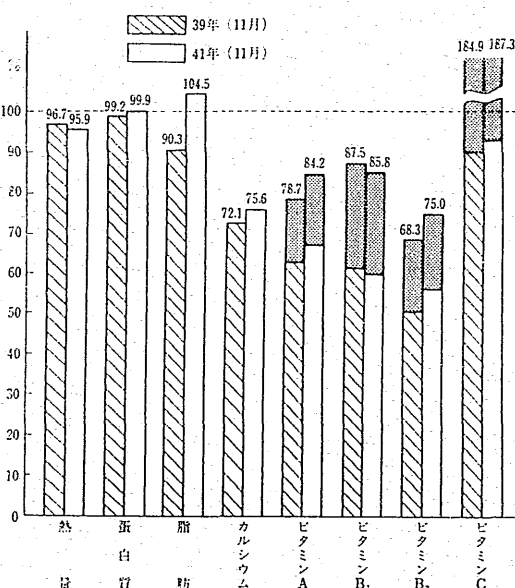
(2) 蛋白質

蛋白質の摂取量は、74.8g (動物性蛋白質は29.3g) であり、熱量と同様39年に比べてほとんど増減はない。年次推移をみるとこの数年間にわずかながら増加の傾向がみられる。

(3) 脂 肪

脂肪の摂取量は、39.7gであり、39年に比べて約16%の増加となっている。年次推移をみると他の栄養

図一5 昭和45年目標基準量に対する比較 (全国平均)



(注) ビタミン類については、調理による損耗を考慮した場合の部分は除かれる。